

南あわじ市 平成 20 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

整理番号 327

事業名	南あわじ市敬老会		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	健康福祉部	長寿福祉課		款	民生費・3款
電話	0799 - 44 - 3005			項	社会福祉費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)		目	老人福祉費・3目
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	安らぎづくり__元気あふれ__住んで快適なまちづくり__			
	まちづくりの目標	延ばせ健康寿命__[健康]			
	施策目標	高齢者の生きがい活動や就業の場、癒し・消費の場を広げる			
該当する事業について「 」を選択		施策的事業	業務委託	負担金補助	

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に) 市内に在住する70歳以上の者		対象人数(人) 11,247	
	意図	(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 長年にわたり社会に貢献されてきた高齢者の方を招待し、敬意を表し長寿をお祝いする。			
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) 旧町単位で4会場に分けて実施する。 内容は、午前は式典(高齢者表彰、金婚夫婦の表彰、長寿祝品の贈呈等)を開催し、午後からアトラクションを行う。 スタッフ等については各種団体に協力して頂いている。 対象者への案内は、市の広報及び各種団体(婦人会・自治会・シルバー及び老人クラブ等)に依頼して案内通知をする。会場へは送迎バスを配車する。			
	背景	合併時以前から実施されていた事業で、ほぼ現在と同様の内容で実施していた。			
合併協議事務調整内容	事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市直営 <input type="checkbox"/> 民間・その他 ()			
	事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし			
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)				
	<input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 70歳以上の方を対象に、旧町単位で実施する。 協力団体への依頼については、旧町の状況を重視する。				

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

「実施内容」により得られる活動結果指標 (アウトプット)	指標名	参加者数				指標単位
						人
	指標説明 (指標算出方法等)	対象者に対し何人参加いただけたか。				
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
	目標値	10,874	11,107	11,247	11,450	
	実績値	2,214	1,962			
達成度 (%)	20.4	17.7	-	-		
目標値設定の考え方	対象者数全員を目標値としている。 対象者に対し何人参加いただけたか。 平成18年度は台風により中止であったため参加申込者数を実績値に計上している。					
アウトプットにより達成される「目的」に対する事業の成果指標 (アウトカム)	指標名	参加者率				指標単位
						%
	指標説明 (指標算出方法等)	対象者に対し何%に方に参加いただけたか。 (参加者÷対象者×100)				
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
	目標値	30.0	30.0	30.0	30.0	
	実績値	20.4	17.7			
達成度 (%)	68.0	59.0	-	-		
目標値設定の考え方	対象者約3人に1人の参加を目標とした。					
資源配分 インプット		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
	直接事業費 (千円)	3,044	8,697	9,160	8,615	
	報償費	15	332	360	242	
	需用費	1,962	4,360	4,794	4,558	
	役務費	5	87	118	413	
	委託料	510	1,063	1,032	808	
	使用料及び賃借料	552	2,855	2,856	2,594	
	財源 (千円)					
	国					
	県					
	起債					
	その他					
	一般財源[A]	3,044	8,697	9,160	8,615	
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0	
	平均人件費(1日当り)	29.9	30.1	27.9	27.9	
	事業量1(事業に要した日数)					
	事業量2(事業に要した人数)					
年間経費([A]+[B])	3,044	8,697	9,160	8,615		
「目的」対象人数1人当り経費 (千円)	0.3	0.8	0.8	0.8		
受益者人数(1,962)1人当り経費(千円)	1.6	4.4	4.7	4.4		
経費に関する補足説明	平成18年度は台風により中止されたため、一部費用が不要となった。					

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
達成度	活動結果指標目標達成度	%	20.4	17.7	-	-
	(アウトプットの達成度分析、問題点・課題などを記入。) 対象者に対して参加率の目標を25%に設定したが、17.7%と大幅に落ち込んでしまった。 要因は、アトラクションの内容もあるが、大きくは会場及び会場の設備に問題があったものとする。					自己評価 (5点評価) 2
有効性	成果指標目標達成度	%	68.0	59.0	-	-
	成果向上率	%	15.0	13.2	-	-
	(事業実施による目的に対しての有効性分析、問題点・課題などを記入。) 参加者には楽しんでいただけたと思うが、対象者に対して18%足らずの参加率であり、検討が必要である。					自己評価 (5点評価) 2
効率性	活動実績1単位当り経費	千円	1.4	4.4	-	-
	効率性増減率	%	78.0	222.4	-	-
	(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 参加していただいた方については効果は大きく、一人当たりの経費についても適当であるとする。 しかし、対象者全員を考えると18%の参加者であり非常に悪いとする。					自己評価 (5点評価) 2
必要性	公共性の高低	<input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低				
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 長年にわたり社会に貢献された高齢者に敬意を表し、長寿のお祝いをするのは必要である。					自己評価 (5点評価) 4
総合評価	自己評価をふまえた現状分析		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>対象者の中には、地区での寄り合いのような敬老会を求めており、大きな会場で大勢の参加による敬老会を求めている人が多くいると感じる。 しかしながら、コスト面等を考えると会場を増やすことができないため、どうしても参加者が増えず評価は下がってしまう。</p> <p>評価グラフ</p> </div>			

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成21年度にできる改善・改革	平成22年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し
	<p>コスト面等を考えると1会場での実施の方向に考えざるを得ないものの、参加者は、地区での寄り合いのような敬老会を求めており、大きな会場で大勢の参加による敬老会を求めている人が多くいると感じるので、経費節減には努めつつも、現状維持とする。</p>	<p>今後も実施状況や市民ニーズを把握した上で、改善すべき点、見直すべき点を洗い出し、今後の敬老会のあり方について検討していく必要がある。</p>
(現状維持以外の改善方法)		<p>改善案としては、敬老会の考え方を改め、対象者は70歳以上(現状又は75歳以上)で、代表者の参加による式典とし、式典とアトラクションを敬老の日にケーブルテレビで放映するなどが考えられる。テレビ放映することにより誰もが見るようになる。</p> <p>他に、対象者全員に簡単な敬老祝い品等を贈呈する。(敬老月間中に送付する。)</p>
改善によって期待される効果	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	コスト面	コスト面
(現状維持以外の改善方法)		<p>テレビで放映することにより、参加している高齢者やスタッフだけでなく住民誰もが見るようになる。誰にも高齢者を敬う意識を持っていただくことができる。</p> <p>アトラクションについては敬老会に放映できるようそれまでに希望者を募集し撮影をしておく。出演者も画面を通して多くの人に見ていただくことができる。</p>
		<p>コストは下がるし、テレビ放映により多くの方に楽しんでいただけるし、来賓の方も画面を通じて多くの方にお祝いを伝えることができる。</p>
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>年に一度の高齢者を敬う行事は必要である。</p>	